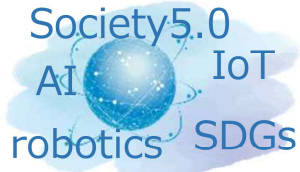


協議事項 資料

I C T を活用した新たな学びへの期待について

2030年の社会と子供たちの未来（平成28年12月中央教育審議会答申から抜粋）

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難に



社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば難しい時代

変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものに

平成29年、30年、31年学習指導要領

前文 これからの学校には、（略）一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びに向かう力、人間性等

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

資質・能力の育成



・各教科等で育成を目指す資質・能力の育成
・言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成等

授業改善

学習指導要領 総則
第3 教育課程の実施と学習評価

主体的・対話的で深い学び

一体的に充実

学習指導要領 総則
第4 児童（生徒）発達の支援

個別最適な学び（教師視点では「個に応じた指導」）、協働的な学び

主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び及び協働的な学びに生かす

GIGA※スクール構想（1人1台端末・高速ネットワーク）（カリキュラム・マネジメントにおける物的な体制整備に位置付けられる。）

教育・学習におけるICT活用の特性・強みを生かし、新学習指導要領の趣旨を実現するため重要な役割を果たす。

※Global and Innovation Gateway for Allの略



「学びの改革プロジェクト」 ICTを活用した新たな学びの推進

◆ 新たな県立学校の姿

大型提示装置（プロジェクター）

- ❖ 県立学校の普通教室等に段階的に整備(R2~R8)

《R2整備済》24校

《R3整備予定》13校

R3年度内に全県立学校の整備が完了するよう前倒し措置(R3.9月補正)

活用成果等

※R2先行導入校での実績等

【活用事例】

- ・板書内容をパワーポイントで作成し、電子黒板機能を使って書き込み
- ・探究学習などで、生徒がパワーポイントを使ってプレゼンテーションを実施
- ・各教室にオンラインで映像を流して学年集会や講演会、企業説明会などを実施



【教師の感想】

- ・授業の課題提示や振り返りが容易で、授業構成が立てやすい。
- ・実験装置の使い方など、手元を映しての説明により、理解度が向上した。
- ・板書時間が短縮され、他の活動時間が増えた。

【生徒の感想】

- ・先生が強調したいところが一目瞭然だった。
- ・黒板を写すことばかりに気がとられることが解消された。
- ・歴史や国語の授業で、写真や動画が写ることでイメージがしやすくなった。

無線LAN（Wi-Fi）

- ❖ 全県立学校の普通教室等で稼働開始(R3~)
学習用クラウドの利用やプロジェクターとの接続が可能



授業等でICTが日常的に使われる
「新たな学びの場」の実現

緊急時の家庭学習支援もオンラインで対応

児童生徒用1人1台端末

- ❖ 附属中及び特別支援学校は整備済
- ❖ 高校はR2・R3補正予算により、県整備分とBYOD(保護者負担)によるハイブリット方式を導入

《R2補正》高校生徒用 8,480台
《R3補正》高校生徒用 7,500台
全生徒の70% ← 計 15,980台

R3.4月からは全児童生徒にMicrosoftのアカウントを付与



県整備分 70%

BYOD分 30%

小中高の全てで1人1台端末環境を実現

活用成果等

※学びの改革研究協力校での実績等

【活用事例】

- ・グループでテーマを選び個人端末で情報を検索。調べた内容をグループで共有し、深めたうえで、教員端末に提出
- ・端末を使って小テストを配信。結果が直ぐに集計され、リアルタイムで正答率等を共有



「主体的・対話的で深い学び」を98%の生徒が実感(授業アンケートより)

◆ 新たな学びを推進する5つのポイント

① ICT活用事例の研究・普及

【いわて学びの改革研究・普及事業】[R2~R4]

- ・岩大・県大との共同研究による活用事例等の成果を全県に普及

《研究協力校》7校

盛岡市立飯岡小・中学校
一戸町立一戸小・中学校
盛岡第三高校
花巻北高校
水沢高校



R3は本県課題である「算数・数学、英語」を重点とし、大学によるデータ分析等の効果検証を拡充

② 教員研修とサポートの充実

【GIGAスクールサポーター】[R2~]

- ・業者委託による学校訪問、電話相談窓口の開設等により教員や児童生徒のICT活用をサポート

【ICT活用研修】[R2~]

- ・総合教育センターの教員向けICT活用研修の拡充
- R3は78講座をICT活用研修に位置付けて実施

【いわて学びの改革開拓チーム】[R2~]

- ・県立学校教員の有志メンバー(20人)によるハードやソフト面での実践事例や課題等の共有

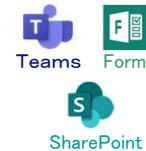
【各種フォーラム・発表会のオンライン化】[R3~]

- ・各学校の取組事例の共有を促進

③ オンラインによる家庭学習支援

【グループウェアを活用した課題配信等】[R3~]

- ・R3から全児童生徒にMicrosoftのアカウントを付与したことにより、「Microsoft365」を活用した連絡、課題配信等が可能



【授業目的公衆送信補償金】[R3~]

- ・臨時休業時のオンライン授業で、個別に著作権者等の許諾を得ることなく教材等の配信が可能



④ 遠隔教育の推進

【イーハートブCOREネットワーク構想】[R3~R5]

- ・総合教育センターを配信センターとする遠隔授業の推進

※Microsoft Teamsを利用

《配信先》5校

- ①葛巻高校、②西和賀高校
- ③花泉高校、④山田高校
- ⑤種市高校

R3は試行を行い、本格実施に向けた課題等を整理

